

# 活動レポート 音訳ボランティアグループ ともしび

今回は、目の不自由な方へ、音訳による支援活動をしているグループを紹介します。

## 1 「広報しゅうなん」を毎号、音訳されていますね。

周南市が設立されたときに市役所から依頼を受け、以来ずっと行っています。

毎号、発行日より少し早めに印刷会社から直接いただき、発行日には視覚障害者の方へお届けできるよう作業を進めています。まず、当番が、パソコンにインストールしている音訳ソフトにタイトルを入力します。次に、録音室内で音訳ソフトを操作しながら、表紙から順番に録音し、音訳データを作成していきます。録音が済んだ部分は皆で聞き、読み間違いがないか、発音は正しいかなどをチェックします。

広報の容量にもよりますが、1人約2~3ページ担当します。全てを完成させるのに2~3日かかりますが、音訳ソフトの扱いに慣れるまでは1週間近くかかることもありました。

作成した音訳データはCDに録音し、周南視覚障害者図書館へ送ります。あとは図書館の方が複製し、視覚障害者の方へ郵送していただきます。

## 2 「しゅうなん」以外に定期的に音訳しているものはあるの？

「しゅうなん社協だより」(※1)の抜粋部分と、会長が送ってくださる「周視協だより」(※2)、年3回発行の「相愛」(※3)も音訳し、市広報と同じCDに収録しています。 ※1…発行：社会福祉法人周南市社会福祉協議会 ※2…発行：周南市視覚障害者福祉協会 ※3…山口県立下関南総合支援学校（一県内の視覚障害特別支援学校）PTA新聞

新南陽総合福祉センターにて録音



みんなでチェック



## 3 音訳の難しいところは？

写真や複雑なグラフがあるときは、物の位置、グラフの数値など、細やかな説明が必要となるので説明文に工夫が要ります。文章はページを担当した人が考えますが、録音前にわかりやすい説明になっているかどうか皆に確認し、意見を出し合っています。

市広報は表紙の写真から音訳していますので、どのような説明になっているか、よろしければお聞きになってください。

## 4 発声のコツや、気を付けているところは？

よそゆきの声を出しつつ（笑）、抑揚を抑えた声になるよう気を付けています。感情を込めたり、「きれいな」など自分の感想を入れたりせず、聞く方が先入観なく理解・想像できるよう、見たままを読むよう注意しています。

また、方言を使った音訳をしている市もありますが、私達はどこの出身の方でも聞きやすいよう、言葉もアクセントも標準語に沿って発音しています。山口弁や山口風のアクセントに慣れているので間違いに気付きにくく、活動当初は大辞林やNHKが発行しているアクセント辞典が欠かせませんでした。

## 5 会独自の録音図書「ともしび」も制作しているそうですね。

図書というよりは、時事ネタや流行の物をまとめた通信のようなものですが…。月1回、会員各自が新聞で気になったエッセイや話題の図書の概要を1件10~20分程度、約2時間分にまとめてCDに録音し、交流のある視覚障害者の方へ届けています。 ※「ともしび」は貸出し・お送りができますので、お聞きになりたい方、ご家族の方はお問い合わせください。

## 6 ベテランの方が多いの？

活動歴が長い会員が多いですが、今は親の介護が始まり、時間の合間をぬって活動している会員がほとんどです。加えて、高齢になってくると声がかすれ、息継ぎの回数も多くなり、声をスムーズに出すことが難しくなってきます。活動を続けていくには、若い方の力が必要だと感じているところです。

## 7 活動の原動力は？

普段は視覚障害者の方と接する機会がありませんが、「ともしび」をお渡ししている方々との交流の時や、何かの折に感謝の言葉を耳にする、「お役に立てている」とやりがいを感じます。

また、文章を読み込むことで漢字や言葉遣いの勉強にもなり、自分自身のためにもなっています。

会員の中には、音訳経験もなくいちから始めた者もいます。経験豊富なメンバーが丁寧にお教えしますので、関心のある方、一緒に活動しませんか！

■問合せ先■

音訳ボランティアグループ ともしび（山本）  
Tel/Fax 0834-62-4828